

北京日本学研究中心合同研究会報告

目 次

北京日本学研究中心合同研究会について……………	大矢根 淳 ……	1
日本における複雑系経済学の展開 — マルチエージェントベースの経済学を中心に ……	吉田 雅明 ……	5
哲学における複雑系 ……	金子 洋之 ……	12
「複雑系社会学」の可能性 —— 相互行為と社会システム論から —— ……	嶋根 克己 ……	17
編集後記……………		23

北京日本学研究中心合同研究会について

大矢根 淳

2005 年度春季合宿研究会の一環として、3 月 16 日（水）夕方、専修大学社会科学研究所有志と北京日本学研究中心社会経済研究室との合同研究会が開催され、専大社研からは吉田雅明所員(経済学部)はじめ金子洋之所員（文学部）、嶋根克己所員（文学部）の三人が登壇し、また北京日本学研究中心からは修士課程二年生 4 人が報告を行った。

北京日本学研究中心は北京外国語大学キャンパス内に開学する大学院大学である。1972 年の日中国交正常化・第 1 次日本語ブーム以降、多くの大学で日本語教育が開始され、1980 年、当時の大平首相の提唱で日中両国間政府の合意に基づく「在中国日本語研修センター」(通称「大平学校」) が設立されて中国国内の大学日本語教師の再教育が実施されてきたが、その後それが発展的に解消されて「北京日本学研究中心」が設立され、日本語教師の再教育と大学院修士課



(撮影：大矢根淳)

程の院生教育が平行して実施されるようになった。これまで多くの修士課程修了者、博士課程修了者、学位取得者を輩出し、中国における日本研究の中心的な役割を担っている。センターの修了生・卒業生は現在、中国各地の日本語教師として活躍しているほか、北京・上海をはじめとする社会科学院あるいは中国全土

の大学の教授陣として活躍している。北京日本学研究中心は2005年秋に、創立20周年を迎え、記念の国際シンポジウムが開催された。

今回の専大社研と中国社会科学院共催の国際シンポジウム「中国経済与社会协调发展学术检讨会」の企画・運営の実質的な中心として活躍した中国社会科学院の李国慶氏は、この北京日本学研究中心の出身で、東京大学（修士）・慶應義塾大学（博士）で学位を取得して帰国し、中国社科院・都市発展与環境研究中心で活躍する一方、北京日本学研究中心には講師としても関わっていて、その関係で、今回の国際シンポジウムの通訳には北京日本学研究中心の教授陣も参加してくれた。

おりしも、大矢根淳所員（文学部）が今年度、北京日本学研究中心の派遣教授（派遣専門家）として北京に赴任（2月末～7月中旬）していたことで、中国社科院・李国慶氏、北京日本学研究中心・宋金文氏、専大社研・大矢根の三名によって国際シンポジウムの報告レジュメの翻訳作業等が進められ、それらの作業過程で、専大社研と北京日本学研究中心の合同研究会開催の可能性が相談されてきた。しかしながら、専大社研の北京滞在日程はかなりたて込んでいたこと、それも中国社科院の特段の配慮で北京各地の視察・調査が綿密に企画されていたことで、専大社研フルメンバーが参加しての北京日本学研究中心との合同研究会開催は難しかったので、公的視察・調査等の日程が一段落する3月16日夕方から、専大有志を募って研究会開催が計画された。

中国社科院との国際シンポジウムは、社会・経済・経営等の諸分野の報告が重ねられたので、こちら北京日本学研究中心との合同研究会では異なる領域・テーマで企画が練られた。専大社研メンバーの中から、吉田所員ら数名が「複雑系社会理論」をテーマとして報告してくれる旨

申し出があり、北京日本学研究中心側と協議の結果、これがテーマに採択された。吉田所員らは 2003 年 3 月、専大社研社会科学叢書『複雑系社会理論の新地平』（専修大学出版局）を上梓しており、その執筆陣の中から、吉田所員が進化経済学の領域から、金子所員が哲学の領域から、嶋根所員が社会学の領域から報告を行った。

また、この共同研究会では、北京日本学研究中心側から修士課程二年に在籍する院生 4 名が、各自の研究計画書の概要を発表した。彼らは数日後に東京大学をはじめとする日本の大学院への留学出発を控えており、その意味では第一線の社会学者を前に日本語で各自の研究計画書を披露する、いわば度胸試しの場ともなった。みな、素晴らしい日本語力で堂々と各自の研究計画を披露し議論した。

さて、このような経緯・雰囲気でご企画・実施された専大社研有志－北京日本学研究中心の合同研究会は以下のように進められた。会場は北京日本学研究中心 4 階 403 室、午後 5 時～7 時。

1. 竹内信夫・北京日本学研究中心日方主任教授挨拶
2. 柴田弘捷・専大社研所長挨拶、記念品贈呈
3. 専大社研「複雑系社会理論の新展開」に関する報告および質疑
 - ①吉田雅明：「日本における進化経済学の展開～マルチエージェントベースの経済学を中心に」
 - ②金子洋之：「哲学における複雑系」
 - ③嶋根克己：『信頼』から『友好関係』へ～相互行為と社会構造
4. 北京日本学研究中心・修論研究計画報告
 - ①張 域：「公的信用保証制度のリスク管理について」
 - ②郝 秋香：「地方住民の生活世界から見る地方の価値と地域活性化～移住者の生活史を中心に」
 - ③周 書林：「ジョブ・ローテーションと昇進昇格との関係性～ブルーカラーのキャリア考察を通して」
 - ④何 環：「コミュニティメディアとコミュニティの生成～日本の市民パブリック・アクセス活動の考察から」

合同研究会終了後、大学キャンパス内のレストランで懇親会が開催された。参与をはじめ専大社研有志、北京日本学研究中心修士課程 1・2 年の院生、教授・助教授陣、会場運営等でご尽力いただいた職員の方々総勢 40 名弱が和やかに盛大に夕食を共にして語り合った。

さてその後日談。帰国した専大社研有志のもとに東京大学大学院に留学中の郝秋香さん、何環さんから挨拶の連絡があったことが契機となり、嶋根ゼミ（文学部）との「国際交流セミナー」（専大国際交流センター共催）が実現し、専大学生・院生・留学生との交流が行われた。双方

の学生・院生にとってとても刺激的な研究会になったと聞いている。その模様は『ニュース専修』に掲載され、中国・北京の北京日本学研究中心にもその記事は届けられ、資料室に配架された。